

平成 8年 8月10日
 第 11 号
 題 字 大館市宗福寺 東堂
 加藤信三老師御染筆
 発行所 北秋田郡鷹巣町七日市
 龍泉寺内
 秋田県梅花流師範会事務局
 発行者 佐藤 仁 鳳
 編集者 (広報部) 保坂春聡
 印刷所 北秋田郡森吉区米内沢
 武石 印刷
 ☎ 0186-72-3319

盛大に、

祈りをこめて！

七年度の県奉詠大会は例年のように県内を南北二会場にわけて行うのではなく、全県梅花講が一堂に会しての開催でした。特に今回は終戦五十年を迎えるということもあって「終戦五十周年平和祈念梅花流秋田県奉詠大会」と銘打ち、十月十九日、天王町総合体育館で行なわれました。この奉詠大会の主催は秋田県宗務所ですが、師範会としても企画準備段階よりお手伝いさせていただき、関係御寺院と参加講師すべての協力のもと、無事円成を見ることが出来ました。今大会の特色は全県から九十七講の登壇という参加講の多さもさることながら、大会に先だって終戦五十周年平和祈念法要という仏事を行ったこと、また登壇奉詠にあたって舞台設営や音響設備の専門スタッフをおいたことがあげられます。終戦五十周年平和祈念法要では略布薩^{りやくふさ}という法会をとりいれ、懺悔文、四弘誓願文、三帰礼文、仏名唱札を中心にした法要を行いました。詠讃歌の奉詠のみではなく師範、詠範、講員の全員一体となった法要を行ったことはこれまでにない新しい試みとして評価されるものと思います。

(十ページ「平成七年度の活動を振り返って」より)

出 会 い ことしの県大会

県 南 大 会



7月13日 由利郡西目町 シーガルセンター

県 北 大 会



7月24日 能代市 総合体育館

勉強になりました

特派師範巡回講習会



堀内正樹 師範
(山梨県・宗禅寺住職)

大徳道賢 師範
(北海道・大慈寺住職)

教区	月日	会 場	教区	月日	会 場
9	6月15日	琴丘町 龍江寺	15	6月15日	羽後町 宝泉寺
9	16日	二ツ井町 清徳寺	7・17	16日	協和町 徳昌寺
10	17日	阿仁町 耕田寺	3	17日	東由利町 蔵立寺
11	18日	鹿角市 吉祥院	14	19日	仁賀保町 禅林寺
18	19日	大館市 宗福寺	4	20日	大内町 興昌寺
18	20日	鷹巣町 森昌寺	12	21日	秋田市 円通寺
2	21日	五城目町 待月院	1	22日	秋田市 嶺梅院
13	22日	男鹿市 龍門寺			
	23日	秋田市 禅センター		23日	秋田市 禅センター

禅センター梅花講習

檀 信 徒 講 習 会

月日	講 師	曲 目
9月13日	富岳正純師 保坂春聴師	入 寂 法 灯
10月11日	保坂春聴師 奥山芳寿師	讚 仰 伝 心
11月8日	奥山芳寿師 佐藤俊晃師	無 常 月 影
12月13日	佐藤俊晃師 近藤俊貞師	慶 祝 道 交
'97 2月14日	須藤知俊師 本間雅憲師	誓 願 不 滅
3月14日	丹生純雄師 本間雅憲師	花 祭 供 華

(午前10時30分～午後3時まで)

宗侶・寺族研修会

月日	講 師	曲 目
9月17日	岩館祖芳師	歡喜・慶祝
11月17日	柳川浩二師	明星・道交
'97 2月18日	柴田弘一師	不滅・誓願

(午前10時30分～午後3時30分まで)

秋田市泉三嶽根15-18 ☎0188-68-6871

特派巡回報告

「常夏の国ハワイ巡回」

秋田市 東泉寺住職

柴田 弘一

月々晴れた空 そよぐ風々月 一昨年
秋、十四日間のハワイ梅花特派巡回の模様
を短く綴ってみよう。

日本国内では紅葉の見頃の十月中旬。オ
アフ島ホノルル空港に一人降り立った。

常夏の島ハワイの気温は30度。暑いが爽
やかだ。時差のためか暑さのせいか、頭が
ボーッとしたまま、出迎えのレイと握手ぜ
めのなかで、ハワイ別院正法寺の松浦総監
老師ご夫妻とハワイの各島の開教師の方々
の紹介があつて初めて、今自分は「ハワイ」
にいるのだと実感する。

到着した日は一日中「時差ボケ回復休養
日」となった。因みに十九時間の時差あり
又、日本からホノルル迄は約七時間程。

講習初日(十月十二日)の朝は五時半起
床。坐禅と朝の勤行(おつとめ)に随喜す。

おつとめの中で、尼僧さんの「三宝帰依
の仏讃歌」が静かに流れ、堂内は荘厳な中
にも清々しい朝課風景であつた。

ハワイ諸島には曹洞宗寺院が十ヶ寺あり、
今回その内の四ヶ寺を巡回した。

日本を出発するまでは、英語が話せない
のに大丈夫だろうか、と随分心配したが、
議員さん達は皆日系二世と三世の方で、日
本語が達者々。アーよかった!! (しかし
お互い同志は英語なのだ)

梅花の法具、教典など、私たちのものと



同じものを使用しているが、梅花
服は使用せず、女性は
皆「ムームー」(正式
な衣裳)、
男性はスラ
ックスに開
襟シャツ姿。
詠唱の声
は大きくあ
かるい。机
とイスを使
用しての坐
行及び立行

が殆んどで、ジュータンに坐つての坐行は
検定会の場を除いては無かつた。
講習は終始和やかなり。二年に一度、日

本からの講師による講習と言う事もあつて
か皆々真剣。曲の大部分は、お寺の年中行
持に合った曲と供養のための曲で、作法詠
唱ともハワイのおおらかさ、あかるさを感じ
させるものであつた。議員の数は少ない
が、午前、午後、そして夜の講習と熱心な
姿に感動すら覚え、帰国後指導者の二名の
方に「詠讃歌トレーナー(楽器)」を送つて
差し上げた。今も活用しているとの便り。

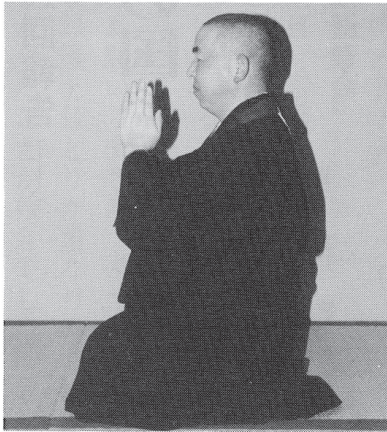
朝参の折のお茶と梅干しにはビックリ。
あるお寺では、白米のごはん、トーフの味
噌汁、納豆など心づくしが出され感激。
オアフ島、カウアイ島、マウイ島の各寺
にお世話になり乍ら議員さんたちとふれあ
う中で、各自がアメリカ人としてハワイの
大地に根を下ろし、たくましく、おおらか
に生きている姿が頼もしく映る。巡回の合
間を見ての病院、老人ホームへの慰問など
など、書き尽くせない程得難い体験をさせ
ていただいたことに、只々感謝合掌す。



中央筆者

基本作法

毎時も行じている事ながら、お粗末になっていませんか！
 「合掌」や「礼」によって梅花は始まります。いま一度、御自分の作法を確認して正しい作法を身に付けましょう。

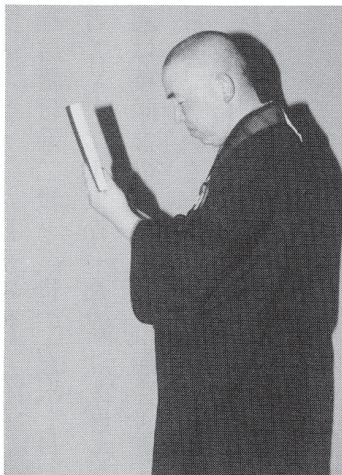


^{がっ} ^{しょう}
合 掌

- 指さきと鼻とほぼ同じ高さにする。
- 腕は八の字の形にする。

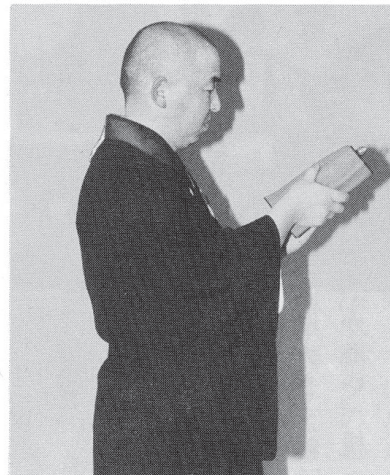
^{ねん}
念

教典を頂く

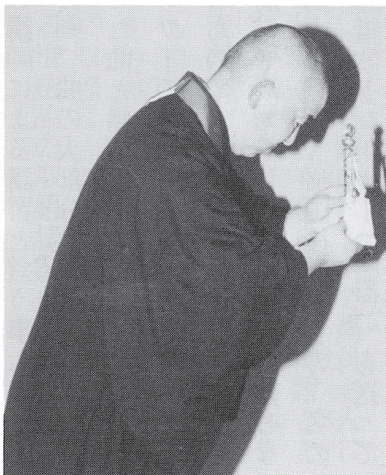


^{ほう} ^じ ^{ほう}
捧持法

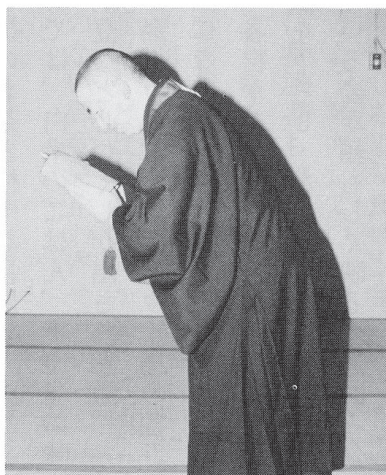
- 法具の前方上部が肩の高さになるようにやや傾斜した形で捧持する。



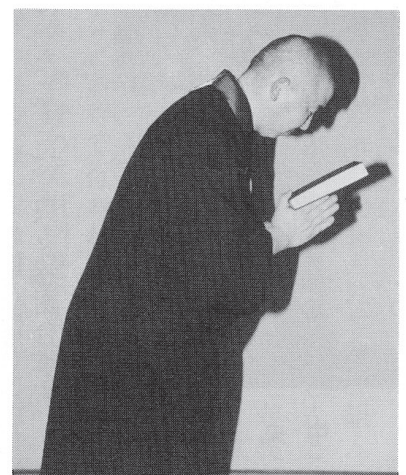
立 行



立 礼 (法具)



立 礼 (教典のみ)



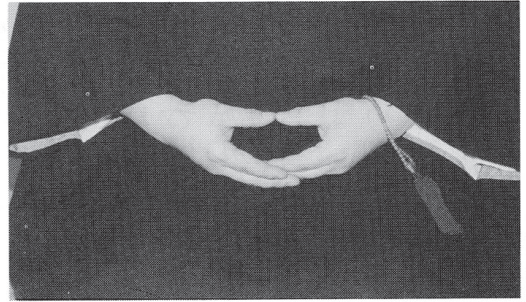
写真で見る

はい 拝



○合掌している腕がももに軽く触れる程度に深く屈する。

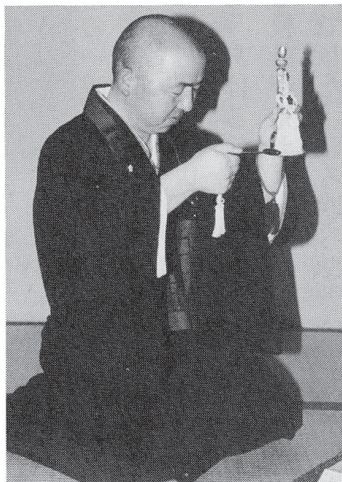
ほっ かい じょう いん 法 界 定 界



しょう ねん 唱 念

- 軽く頭だけを下げ。(上体は動かない)
- 詠題の挙唱中や曲中、並びに唱え終わったときにあります。

坐 行



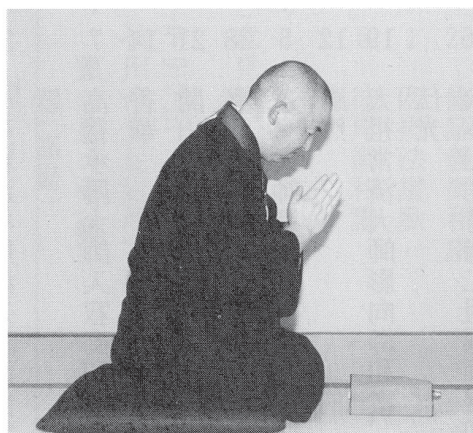
立 行



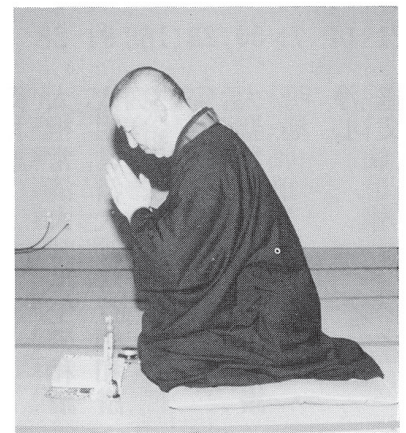
れい 礼

- 頭を下げる動きに伴い、上体がやや動く。
- 拝のようには深く屈しない。

法 具 を 解 く ・ 組 む



奉 詠 終 わ っ て (坐 行)



シリーズ

おらほの梅花講

ざんじ寺
しろのん音
たかん観
田観

住所 北秋田郡田代町早口字堤の沢
六五―一〇(第十八教区)
設立 昭和五十一年一月十五日
講長名 小林秀天
講員数 二十八名

私達の始まりは、昭和五十年八月全応寺住職佐藤仁鳳先生から教わり、始まりました。「皆さん大きい声でハイノドレミソラドレミー、ミレドラソミレドー」何も解らない私達は張切って声を出していましたが、次に大きい紙に「三宝御和讃」と書かれた梅花の譜面を見た時は、何が何やら全々解らず黙りこくってしまいました。

でも先生はゆっくり解り易く教えて下さり、少しずつですが進歩して行つたのです。そして住職の秀天和尚様の奥様が大変熱心で、法具等取り揃えて設立したのが五十二年一月でした。仁鳳先生は、雨の日も雪の日も、比内からバスを乗りつぎして月二度昼と夜に来て下さいました。本当に有難く、私達梅花講の育ての親でございます。又、住職の奥様のお蔭で今の私達がある

のですが、盛岡での全国大会に出て、三陸海岸を廻り、帰った翌日突然亡くなられ、あの時の悲しさは生涯忘れる事が出来ません。無常御和讃に「おくれ先立つ事あれど往きて帰らぬ旅ぞかし」とありますが、本当に無常の一言につきました。その年、六十二年夏の県北大会で追善供養御詠歌をお唱えしましたが、ナレーションの方のお言葉で、もうあげる前から胸がいつぱいになり、涙で教典が見えずどうお唱えしたか解りませんでした。いろいろの思い出と共に

おそろいで“パチリ”



二十年が過ぎましたが、まだまだ未熟でございます。これから若和尚様や講員の皆様と共に一層梅花の道に精進して参りたいと存じます。

紹介者 講員

佐藤 京子

テレホン梅花 予定表

月日	曲目
8・3	孟蘭盆会御和讃
10	孟蘭盆会御詠歌(迎火)
17	無常御和讃
24	無常御詠歌(月影)
31	大聖釈迦牟尼如来讃仰御詠歌(高嶺)
9・7	高祖承陽大師入寂御和讃
14	香華
21	開山忌御和讃
28	真水
10・5	達磨大師御和讃
12	廓然
19	太祖先常大師影向御和讃、伝光
26	大本山総持寺二祖国師讃仰御和讃
11・2	太祖先常大師誕生御和讃
9	太祖先常大師修行御和讃
16	(太祖)法灯
23	(太祖二)梅花
30	大聖釈迦如来成道御和讃
12・7	明星
14	浄心
21	道交

☎〇二八八―(73)―七六七六^{ナムナム}

さん 山 院
 ちよう 長 待
 にち 日 げつ 月
 ばい たい 待

住所 南秋田郡五城目町富津内山下内
 字深堀一三〇番地 (第二教区)
 設立 昭和五十七年五月十二日
 講長名 嶋森憲雄
 講員数 三十五名

菩提寺の先々代の方丈様が亡くなられた時常光寺梅花講の方々に来て下さったのが私と梅花との出会いです。奥様に進められてその後二年位した春彼岸の時急に盛り上がり、始めるなら彼岸中と昭和五十七年三月二十四日突然生れたのが待月院梅花講です。当時は常光寺の方丈様が兼務住職で奥様が先生でした。その時一緒に来て下さった方が今の方丈様で先生です。

やっと三宝御和讃がお唱えできるとなるところ「梅花講の届けを出すので偉い先生が来ますよ」との事で怖くてビクビクして本堂に座った思い出があります。又、佐藤仁鳳先生や柴田弘一先生と諸先生たちが何度もご指導に来て下さり正しい基礎勉強が出来た事が大変良かったと頭が下がります。

発足以来十五年目、我が梅花講は大きく成長しました。まず新年会で前年の反省と年内の計画など話し合い、又、定例の練習は月二回、二部は別に二回とし、お寺の行事、彼岸会、涅槃会に参加し、その他にお

葬式などでお唱えしたり。梅花講中心にしてお盆の施食会、毎月二十四日には地藏講、月一回の写経会、十二月の坐禅会等の行事に参加しております。

又、平成六年には、大本山永平寺に参拝し、能登旅行を計画して本山に一泊した感懐は今でも忘れられません。今度は、総持寺参拝を計画中です。写経はこの年代で毛筆を持つ静かな心境に有難い思いです。お寺さんを中心にアイデアを出し合い楽しい講にしながら勉強しています。

又、青森での全国奉詠大会には、詠題詠頭を勤めさせて戴き、無事奉詠する事が出来ました。

一番の喜びは昨年十月二十二日の晋山結制法要です。全員参加し秋晴れの下、行列に花をそえる事が出来、講員の幸せをしみじみ感じました。

晋山式 (平成7年10月2日)



これからもお世話になった先生方やお友達になれた多くの講の方々へ感謝の気持ちを忘れず、さらに精進を重ね皆明るく仲良く助け合い励まし合って行きたいと思えます。

紹介者 講員 大石レイ

講員一泊研修会

日時 9月10日(火)~11日(水)
 10日午前10時受付け~
 11日午後3時解散
 会場 〒018-47 北秋田郡阿仁町幸屋 耕田寺
 電話 0186-84-2036
 対象 県北地区 (おもに九・十教区) の講員
 会費 5,000円 (申込金2,000円 当日納入3,000円)
 申込み 8月20日まで
 会場・耕田寺へ

平成9年 同行御和讃
 1・4 正法御和讃
 11 誓願御和讃
 18 高嶺
 25 良寛さま
 2・1 (永平寺二) 溪声
 8 大聖釈迦如来涅槃御和讃
 15 不滅
 22 修証義御和讃
 3・1 四摂法讚歌
 8 彼岸御和讃
 ※テレホン梅花についてのご希望、ご意見等、お寄せ下さい。

〒01001
 秋田市金足岩瀬字前山三
 東泉寺宛

こころをよむ (十)

梅花の々西来意

千峯雨霽露光冷

この二句は、昨年の秋田県奉詠大会の記念品の短冊で、大本山総持寺前貫首梅田信隆禅師さまの御染筆によるものである。

梅花の々西来意
梅 花 の 々 西 来 意
千 峯 雨 霽 露 光 冷

第一句目の「的々」は、禅のことばで、「端的」など同意語でずばりそのものという意味である。

お釈迦さまの教えは、二代摩訶迦葉尊者に正しく伝えられたあと、代々受け継がれて、二十八代達磨大師に至るのだが、達磨大師は、当時の中国での仏教のありさまを憂い「真実の法を伝えなければ」と、はるばるインドから中国へと渡られて、正しい仏法を弘められた。

「西来意」は、達磨大師が中国に伝えた教えそのものを言っている。

春になり梅の花が一輪くと咲く自然の

営みは、正に真実の姿であって、達磨大師が伝えようとした教えそのものである。梅田禅師さまは、梅の咲くさまと、師から弟子へと正しい法が受け継がれていくさまとをひとつに感じられて、また梅花流をお唱えしながら、み仏の教えを受けとめて欲しいという願いを込めてお書きになったのではないかと思われる。

梅花はそのものずばり、お釈迦さまの教えを詠じているからである。

江戸時代の禅僧面山瑞方禅師は、「西来の祖道を独り東に伝う。去きて越雲に入りその蹤を埋む」と詠っている。それは、達磨大師がインドから伝えた正しい法を如浄禅師が受け継ぎ、更に道元禅師がそれを日本に伝えた。そして京都より越前の山奥に分け入って吉祥峯の雲の中にその跡を没した。その没蹤跡（さとりの）の世界は、日本人の心の渴きをうるおして今日に至っているのである。

千峰の雨霽露光冷
千 峰 の 雨 霽 露 光 冷

次に二句目「千峰の雨霽て」の千峰は多くの峰をいい。「雨霽て」の「霽」は、はれるとか、心がさっぱりするという意味あいがあ。 「冷」はそのままひややかとか

身にしみる、きよいさまを示している。峰々に降った雨もあがって、ようやく日差しが差して草木に宿っている露を照している。天地を洗い清める雨によって、まさにすがすがしく露光も映え清浄な世界がそこあらわれている、まさに真実の姿であり、これこそさとりの世界である……と詠われている。

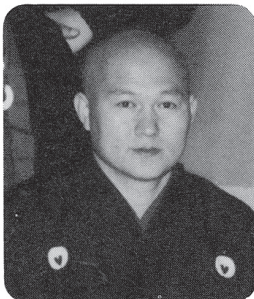
古人のことばに「西来の消息旨を絶す」とある。達磨大師が伝えようとした端的の意味は、文字や言語、学問を超えた「黙」の坐禅であった。そしてその教えは大自然の真相（ありのままの姿）こそが如実に示しているのである。

道元禅師の

「峰の色溪の響もみなながら

我が釈迦牟尼の声と姿と」

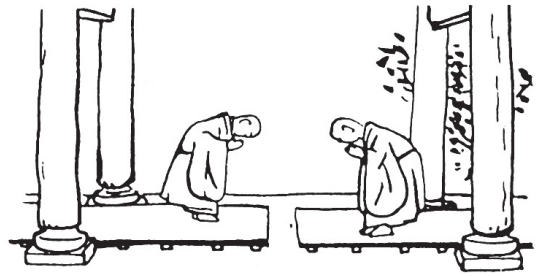
溪声を、白露の如く清らかな身と心でじっくりと味わいながら、お唱えしたいものである。



天王町
自性院住職
鈴木道雄

チヨット ぶじよほう

菩提心発

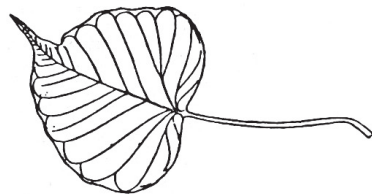


梅花流詠讚歌は御承知のように、昭和二十七年の我が曹洞宗御開山道元禪師様の七百回大遠忌を記念して発足したのが始まりである。もう四十四周年を迎えるわけですが、全国どこへ行っても梅花流を聞くことが出来有難い限りです。

正法教会支部として発足し、会員を集めて一緒に勉強を始めたが、始めの頃は寝ても起きて「このころのやみをてらします」であった。お母さん達に教えるのに、御飯の支度をしながらでも鍋のふちをたたきながら拍をおぼえるようにと教え込んだものであった。連合会も出来、奉詠大会も開催されるようになって、大変刺激になり一段

と熱がこもって教える側が引張られる程に感じられるようになった。特に県北の御寺院様方が熱心に梅花を修行され、吾々もその諸先輩の御指導を頂きながら研鑽を重ねて来られた事は幸甚の至りであった。今や全県下に浸透しつつありこれ又法幸の至りである。

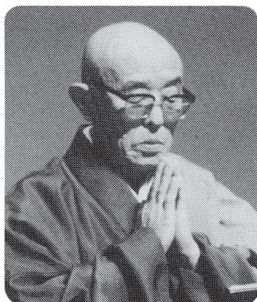
宗門に同道同行同修同証という言葉がある。同じ道を手を携えて一緒に修行し悟りを得るとの意であるが、まさに梅花に譬ったりである。人間の一生は後戻りが出来ないものである。只ひたすらに進むのみである。今の一刻、今日一日を大切にして吾が務めに打ち込んでゆくのが私共佛教徒の生き方であるうと思えます。この方法を身近に教えて下さるのが梅花流であると思われまます。



詠讚歌にありますように、人は生まれながらにして佛なんだということを先ず吾が身にぶち込んで信じ切ることが大切である。一人一人が頂いて来ている佛心、菩提心を大切に、この持てる菩提心が自ら働き出して皆様をお寺へと向わせ、真心の合掌となり、口について出るのが詠讚歌である。こ

れを道元禪師様は菩提心をおこすと云わず、更に一步を進めて菩提心発とお示し下さっております。「お誓い」にありますように正しい信仰に生きるも、仲よい生活をするも、明るい世の中をつくるも皆菩提心発であります。然し人間は中々思うようにはいかないのが常であります。時々三毒煩惱が頭をもたげて来る。吾が方に検定に落ちたのに腹を立てて梅花を止めた人が居た。これではいけない。検定も自分自身の自信を持つためには大切だとは思いますが、要は自身で心楽しく詠讚歌をお唱えし、みんなでそろってお互いにこころよくお唱え出来るのが一番大事だと思います。

もう六年たつと大本山永平寺の御開山道元禪師様の七百五十回大遠忌が参ります。梅花も五十周年になるわけです。みんなですろって大本山にお詣りし、そこで声高らかに梅花をお唱え致しますよう。



本莊市
泉流寺東堂
佐藤道機

平成七年度の活動を振り返って

秋田県梅花流
師範会事務局

佐藤 俊 晃

前事務局長大館市本宮寺佐藤師の急逝により全く突然にこの任に当たることになってしまいました。思えばこのことが個人的な意味では平成七年度の梅花流師範会に関わる最大の出来事でした。その後会長老師はじめ前々事務局長奥山師、役員諸老師や宗務所梅花主事様達から懇切な御指導をいただいでやっとな一年が終わりました。振り返り見て至らぬことの多さに恥じ入るばかりです。

さて県内梅花流の諸行事には奉詠大会、検定会、講員一泊研修会、師範詠範の研修会、禅センターでの講習会、本紙同行の発行など色々ですが、このすべてを師範会が主催しているわけではありません。奉詠大会や検定会は宗務所の主催、禅センターでの講習は禅センター梅花部の主催、師範会の主催行事は講員一泊研修会と同行の編集発行のほか師範詠範の研修会が主な活動となっています。このような区分けがあつたうえで奉詠大会と検定会については師範会としても企画、運営など全面的に協力しているというのが現状です。こうした師範会の職務上の立場を踏まえたいうえで昨年度の活動を振り返ってみましょう。

● 特派師範研修会

六月二十七日。宗務所禅センターにおいて特派師範の大谷先生、須戸先生をおまねきして師範詠範の研修会を行いました。これまでは県内を巡回される二人の特派師範それぞれが二会場にて研修会を持っていただくことが通例でしたがこの度はお二人御一緒に分科会形式でお願いしました。ただ奇しくもこの日は前事務局長佐藤師範の本葬儀と日どりが重なり県北地区の師範はほとんど出席ままならなかったことが残念でした。

● 講員一泊研修会

師範会が檀信徒、講員さんを対象にもっとも力を入れて取り組んでいるのが講員一泊研修会です。梅花流詠讃歌を通じて講員さんと師範詠範のみんなが、ひとときのお寺の生活をともにする。七年度は鹿角市花輪恩徳寺様、能代市善光寺様、天王町自性院様の三会場に御協力いただきそれぞれ一泊二日の充実した研修を行いました。

この研修会ではたんに詠唱の練習のみに主眼を置くのではなく、食事の作法や朝夕のおつとめ、坐禅などお寺で行われる日常の修行生活。万燈供養など参加講員みなさんに御縁の先祖精霊の御供養。御法事やお葬式など仏事法要の際に行われる梅花流詠讃歌の行じ方。詠讃歌の歌詞をもとにした法話。その他いろんな趣向を交えて梅花



流を機縁としたより良い出会いの場を提
供できるように努力しています。回を重ね
るごとに参加者も増え、百名を超えてこ
とも珍しくなくなってきました。ほとん
どの場合御好評いただいています。一
方では冬期間の暖房への配慮や就寝ス
ペースの確保など改善していかなければな
らない点もあります。どうぞ遠慮のない御意見をお寄せ下さい。

● 宗侶寺族一泊研修会

師範会が会員相互の研修会であることは論を俟たないところですが、その研修活動の最も重要なものがこの宗侶寺族一泊研修会です。師範、詠範という名前をいただく以上、各講中において講員さんに対しては指導者となるわけで、研修会の内容も各自の詠唱練習とともに、各講における詠唱、所作、歌詞解釈などの指導法にも大きなウェイトがおかれています。七年度研修会は森岳を会場に十一月二十一、二十二日にかけて開催しました。秋田県内の梅花流特派師範をはじめ六名の師範の方々に講師をお願いし、非常に密度の高い研修となりました。また研修ばかりではなく、ひろく全県から参加者が集まりますので、各地域における梅花流の取組状況など興味深い

情報交換の場ともなっています。

● 同行誌発行

毎年発行している「同行」は師範会の機関誌という位置づけですが、その内容はご覧のとおり会員相互の情報交流というよりも、講員さんを意識した広報誌という性格が強くなっています。そのため本誌の発送先も師範会会員のみでなく、県内全寺院を対象としています。また梅花講設置寺院についてはそれぞれお報せいただいた各講員数分の部数をお送りしています。七年度は第十号を発行しましたが全部でおよそ四千二百部を印刷しています。各地の講中の情報から、梅花流詠讃歌の詠唱の留意点、所作の解説、歌詞の説明のほか、梅花流草創期の頃の御老僧達の苦労話や師範、詠範、講員の声などいつもご覧いただいているような内容をお届けしています。

このほか検定会への協力も大事な活動のひとつです。検定会については特に師範会の中で検定委員会を設け、出来るだけ厳正で公平な検定が出来るように検定会の主催である県宗務所当局と協議検討を繰り返しています。御存知のように検定会は受検者にとって独特の雰囲気があるようで、検定をさせていただくこちら側としても細心の配慮をと努力しています。七年度は県内四会場での宗務所検定と三級教範検定に協力いたしました。

およそ以上が七年度の師範会の活動の概要です。こうした活動を通じて近ごろ師範会会員の中で話題になっていることを少しお報せします。まず梅花講員の高齢化と新入講員減少の傾向ということ。また地域によっては「梅花」に対して関心の低い場合があること。こうした問題は必ずしもすぐに効果的な解決法が見いだせるものではないようです。またこれはひとり師範会のみ抱える問題ではなく、梅花講長会はじめ講員のみなさんとともに考えてゆくべき課題だと思えます。梅花流のより良い在り方についてみなさんと一緒に模索しながら平成八年度以降の師範会活動を進めて参りたいと考えています。

※編集部注・秋田県奉詠大会の一文は一ページに記載しました。

秋田県梅花講の歌

作詞 亀谷健樹
作曲 飯田秀一

試作

一、山はみなもと朝明けの
二、大地ゆたかに稲の穂は
三、千古かわらぬ日本海

天をつく杉湧く清水
雨風を経ていのち満つ
入り日に波は慈悲のいろ

供えまつらんみほとけに
喜びおさめんみおしえを
ともに励ましやわらぎて

香華ふくいく詠衆つといぬ
喜び鈴に鉦にたくして
梅花の道をとわにいそしむ

(一) や ま は み な も と ち ゃ う け の
(二) だ い じ ち ゃ う け の ち ゃ う け の
(三) せ ん こ か わ ら ぬ に ほ ん か い

て り め ひ な い り
あ り ひ な い り
い り ひ な い り

そ な な
ま な な
と も な な

こーいげふくく
よるこびれーち
ばいかのみーち

※ご意見・ご感想を 編集部 または 太平寺 までお寄せ下さい
〒018-42 北秋田郡合川町上杉

検 定 会

● 検定日 8月27日 県南地区

会 場 大内町 楠山荘

申込期限日 8月20日

事務局 由利郡西目町 円通寺

☎ 0184-33-3049

● 検定日 8月27日 県北地区(9・10教区)

会 場 米内沢 龍淵寺

申込期限日 8月20日

事務局 北秋田郡森吉町本城 浄福寺

☎ 0186-72-13304

● 検定日 9月19日 中央地区

会 場 秋田市 さとみ温泉

申込期限日 9月10日

事務局 秋田市金足 東泉寺

☎ 0188-73-2675

● 検定日 9月27日 県北地区(11・18教区)

会 場 鹿角市 百助旅館

申込期限日 9月10日

事務局 鹿角市花輪 恩徳寺

☎ 0186-23-2372

● 検定日 10月29日 3級教範

全県一会場 補陀寺

申込期限日 10月21日

事務局 秋田市泉三嶽根15-18 秋田県宗務所

☎ 0188-68-6871

※時間厳守

各会場とも 午前9時集合し受付

開講式 9時30分

検定開始 10時00分

◆各講長さまと受検者のみなさんへ！

- ・見台、座椅子、拡大コピー等の使用を認める（解法具）の後。
- ・「詠題」から唱える時および終曲の場合の作法は指導必携に準ずる。
- ・「詠題」「詠衆」から始める場合は撞木のみ構え、片手合唱から始める。
- ・「やりなおし」は許される範囲で認める。
- ・検定課題曲は検定開始三十分前に教階ごとに発表する(掲示する)。

- ・「不合格者」は年度内に再度受検できる（受検出来ないという規定はない）。
- ・検定中は検定委員の指示に従う。
- ・検定室での私語等つつしむ。
- ・合否の発表は後日宗務所より各講へ通知する。結果を謙虚に受け止め精進すること。
- ・検定用紙は後日各受験者に渡されるので今後の参考にしてほしい。
- ・各講長様は、受検票の備考欄を活用して下さい。

— シンポジウム —

死をみつめ いまを生きる

■日時 10月20日(日)

開場 12:30 開演 1:00

■会場 秋田市文化会館大ホール

●コーディネーター

奈倉道隆

龍谷大学教授・京都大学医学部附属病院老年科医師

●基調講演

金子真介

生と死をみつめるセミナー代表
1995年FNSドキュメンタリー大賞受賞作品
「道ゆきて」にて紹介される

●基調講演

森津純子

昭和大学病院緩和ケア病棟医師
元長岡西病院ビハラー病棟医長

※地元パネラーを2名予定

主催 / ビハラー・秋田県曹洞宗青年会

編集後記



◎ 毎号のことながら、この度も発行が遅くなってしまいました。原稿を寄せて下さいました方や、講員の皆様には大変な迷惑を掛けてしまいました。お詫び申し上げます。

◎ 五月に山形市で全国大会がありました。参加された皆さんは、大きな感銘を受けたとのこと。秋田県でも全国大会を開催したいとの声が出ております。

◎ 明年には大館市に木造では世界一のドーム球場が完成します。ここを会場にしていつかは、秋

田県でも全国大会を、周到な準備と計画で実現したいものです。◎ お盆が終わると検定会が各地で予定されており、落ちたら……。私も落ちた事があります。原因の一つは基本的な作法が身に付いていなかった為でした。一番大切なポイントです。

◎ 同行を読んでのご感想や、ご意見等がありましたら、左記まで連絡して下さい。また、梅花に関係したことから何んでもけっこうです。ハガキやお手紙を待つております。

〒0184
北秋田郡合川町新田目四
三〇六―七八―四二八〇

新田寺宛